

【児童への話】

番町小学校は、今年で 152 歳になります。今年は 81 人の 1 年生が加わり、全部で 434 人の番町の子がそろいました。嬉しいですね。6 年生の皆さん、1 年生のお世話をよろしくお願いします。2 年生の皆さん、入学式のお祝いの言葉と演奏と歌、とても素晴らしかったですよ。全校の皆さんで、これからも 1 年生に優しく接してあげてください。

さて今日は、教育目標の「やりぬく子」についてお話しします。

皆さんは、学校やお家のお掃除が好きですか？好きな人はそのままですばらしい。これからも頑張ってください。でも、正直、好きではないなと思う人もいます。そこで皆さんに、校長先生からひとつ、言葉を贈ります。それは、「床を磨くことは、心を磨くことである」という言葉です。

「掃除」という言葉は昔からあり、日本のお寺などでは、体や心を鍛える修行のひとつとされていたものだそうです。修行というだけあって、お掃除ではあまりきれいではない場所を片付けたり、掃いたり、拭いたりします。なかなかきれいにならなくて、途中で嫌になる人もいるでしょう。そこで、「だからやらない」ではなく「だから自分が頑張ろう」と考えて、一生懸命に掃除をして床を磨き続けると、頑張る心が鍛えられて、自分をレベルアップさせることができます。それが「心を磨くこと」ということです。番町小の皆さんは、できないことや苦手なことから逃げるのではなく、まずはコツコツとやってみようとする人になってください。床はすぐには光らないかもしれませんが、でも、投げ出さずに磨き続けていれば、床の 1 か所がピカピカになってきます。さらに続けるとピカピカは少しずつ広がり、床全体が、そして自分の心がピッカピカになってくるはずですよ。

校長先生は、この世の中、毎日の努力をコツコツと積み重ねられる人が一番すばらしいと思っています。皆さんが今、自分のために努力することは、将来 10 倍、20 倍になって返ってきて、これからの皆さんを支える力になります。途中で投げ出さず、最後まで諦めずに努力を続けられる、「やりぬく子」になってください。

今日は「やりぬく子 床を磨くことは 心を磨くことである」についてお話ししました。

【本講話について】

先週の始業式、入学式から、いよいよ本格的な学校生活のスタートの週となります。よい学級づくりは 3 日間で行うもの、と教員の世界ではよく言われることです。その 3 日目を迎え、学校での子どもたちの表情や教職員が職員室でしている話から、新しい環境でよいスタートが切れている様子が窺えます。「新しいクラス、楽しいよ」と校長室で話してくれる子もいます。嬉しい限りです。

番町の子どもには、努力を惜しまずに最後までやり抜く態度を確実に身に付け、今後の社会に通用する立派な力を高め続けて欲しいと願い、掃除を例えに本講話を行いました。学校全体で、「継続は力なり」を実践し続けていきます。